

果菜類(ナス)

○高温による被害と産地毎の取組事例

都道府県	露地・施設	原因	症状	対策	普及状況	指導体制	問合せ先
新潟県	露地	7月～8月の高温	・病害(青枯病等)の発生	・抵抗性台木やマルチ(白黒マルチ、敷きわら等)の活用	・一定の効果が認められ、一般化している	普及指導員と産地が連携し、高温対策の指導を行っている。	新潟県農林水産部 農産園芸課 TEL:025-280-5297
大阪府	施設	収穫時期の急激な湿度変化(3月～6月)	・焼け果の発生	・自動開閉装置の導入	・焼け果が発生するメカニズムおよび対策技術を開発。 ・施設栽培なすで導入が進んでいる。		大阪府環境農林水産部 農政室推進課 TEL:06-6210-9595
奈良県	露地	高温(6月～9月)	・花落ち多発による初期の収量大幅減 ・チャノホコリダニ、オオタバコガ、ハスモンヨトウの多発による秀品率の大幅な低下 ・カスミカメムシの多発による、収量低下 ・ツヤなし果多発 	・適宜防除	・県(普及)が対策指導指導資料を作成し、JAを通じて情報提供	県(普及)が対策指導指導資料を作成し、JAを通じて情報提供	奈良県食農部 農業水産振興課 TEL:0742-27-7443
	施設	高温(6月～7月)	・着色不良・ツヤなし果の多発 	・高温期の遮光・遮熱資材の被覆	・収量は低下したものの秀品率向上の成果	・県(普及)が「高温対策栽培体系への転換支援事業」の実施を支援	